

令和4年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（案）

※○数字は「令和4年度（2022年度）みんなで支える森林づくりレポート」の資料番号

【目次】

ページ

① みんなで支える里山整備事業	
・みんなで支える里山整備事業	・・・ 1-1
・防災・減災対策緊急治山事業、地すべり防止施設管理サポート事業	・・・ 1-2
② 河畔林整備事業	・・・ 2
③ 県民協働による里山整備・利用事業	
・里山整備利用地域活動推進事業	・・・ 3-1
・里山資源利活用推進事業	・・・ 3-2
④ 地域で進める里山集約化事業	・・・ 4
⑤ 地消地産による木の香る暮らしづくり事業	
・「子どもの居場所」木質空間整備事業	・・・ 5-1
・木工体験活動支援事業	・・・ 5-2
・木づかい空間整備事業	・・・ 5-3
・県産材公共サイン整備事業	・・・ 5-4
⑥ 薪によるエネルギーの地消地産推進事業	・・・ 6
⑦ 森林病虫害被害枯損木利活用（チップ化）事業	・・・ 7
⑧ 里山整備利用地域リーダー育成事業	・・・ 8
⑨ 森林セラピー推進支援事業	・・・ 9
⑩ エコツーリズムガイド人材育成事業	・・・ 10
⑪ 自然教育・野外教育推進事業	・・・ 11
⑫ 学校林等利活用促進事業	・・・ 12-1
⑫ 自然保育活動フィールド等整備事業	・・・ 12-2
⑬ まちなかの緑地整備事業	・・・ 13
⑭ 観光地の景観整備（県単道路橋梁維持修繕費）	・・・ 14-1
⑭ 観光地等魅力向上森林景観整備事業	・・・ 14-2
⑮ 森林づくり推進支援金	・・・ 15
⑯ みんなで支える森林づくり推進事業	・・・ 16
⑰ 森林（もり）の里親促進事業	・・・ 17
⑱ 地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	・・・ 18
⑱ 地球温暖化防止吸収源対策推進事業	・・・ 19
（参考） 過年度完了事業分	
道路への倒木防止事業	・・・ 20
里山整備方針作成事業	・・・ 21

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

事業区分	①-1 みんなで支える里山整備事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等による土砂災害や流木被害等が増加しており、こうした災害を防ぐための森林整備は喫緊の課題。 また、過疎・高齢化が進む山村地域で里山管理の空洞化を抑制するためには、地域住民等による自立的・持続的な森林の利活用が重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ①防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 ③安全が確保される主要なライフライン等 概ね150箇所程度/5年間 <p>【取組により期待される効果】 間伐材の搬出量の増加、森林整備の実施を通じた防災意識の向上、地域住民の里山利活用の増加</p>

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 未整備の里山のうち、科学的知見に基づき「防災・減災」の観点から優先的に整備が必要な森林の間伐を推進 長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備・利活用を促進 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ①防災・減災のための間伐等 ②県民協働による里山の整備・利活用 ③ライフライン等保全対策 	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	<ul style="list-style-type: none"> ①防災・減災のための間伐等 331ha ②県民協働による里山の整備等 114ha ③ライフライン等保全対策 19箇所 (R4当初:18箇所、R3繰越:1箇所) 	328,871,500円 [328,871,500円]

事業コード	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
			予算額	前年度繰越	321,508	360,439	26,468	2,275	
		国費	108,446	112,838	0	0	0	221,284	
		森林税	213,062	247,601	26,468	2,275	1,203	490,609	
		当初	412,454	201,550	495,000	456,600	350,000	1,915,604	
		国費	116,806	0	0	0	0	116,806	
		森林税	295,648	201,550	495,000	456,600	350,000	1,798,798	R2は補正予算40,000千円含む
		合計	733,962	561,989	521,468	458,875	351,203	2,627,497	R3は他事業からの流用34,600千円含む
		国費	225,252	112,838	0	0	0	338,090	
		森林税	508,710	449,151	521,468	458,875	351,203	2,289,407	
決算額	前年度繰越	321,508	242,729	26,466	2,275	1,203	594,181		
		国費	108,446	61,045	0	0	0	169,491	
		森林税	213,062	181,684	26,466	2,275	1,203	424,690	
		当初	52,015	167,139	492,624	453,188	327,668	1,492,634	
		国費	3,968	0	0	0	0	3,968	
		森林税	48,047	167,139	492,624	453,188	327,668	1,488,666	
		合計	373,523	409,868	519,090	455,463	328,872	2,086,816	
		国費	112,414	61,045	0	0	0	173,459	
		森林税	261,109	348,823	519,090	455,463	328,872	1,913,357	

指標及びその達成状況		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 ③ライフライン沿いの危険木の伐採	成果目標							
	目標値	① 1,290ha	1,800ha	950ha	795ha	795ha	4,300ha	
		② 150ha	232ha	303ha	375ha	450ha	1,500ha	
		③ —	18箇所	27箇所	19箇所	11箇所	150箇所	R4にR3からの繰越1箇所含む
	実績値	① 115ha	803ha	808ha	636ha	331ha	2,693ha	
		② 10ha	59ha	81ha	95ha	114ha	359ha	
	③ —	63箇所	67箇所	36箇所	19箇所	185箇所	R4にR3からの繰越1箇所含む	

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ①搬出間伐増加による単価上昇や、豪雨災害等の影響で着手・完了が遅延する等により、間伐は331haに留まり目標未達成となった。</p> <p>②第3期の森林税最終年度であることから年度内に確実に森林整備が完了する箇所を実施したことや、危険木の処理等による単価上昇により、整備面積は114haに留まり目標未達成となった。</p> <p>③危険木の伐採を19か所実施し、目標を達成することができた。</p> <p>(副次的な効果) 地域における課題解決に資する森林整備に支援することができた。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> ①2,693haの間伐が実施され、集落周辺の森林からの土砂災害や流木被害等の未然防止が図られた。 ②359haの間伐等の森林整備が実施され、地域住民等による里山の多面的な機能の利活用が図られた。 ③目標を上回る185箇所危険木伐採等の予防的対策が行われ、集落やライフライン沿線の安全性の確保が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①搬出間伐の増加等による面積当たりの施工単価の上昇や、豪雨災害等の影響により目標達成に至らなかった。未実施の約1,600haは第4期において継続して取り組む。 ②支障木伐採等のニーズが高く、目標面積には達しなかったが、地域の魅力や安全性向上に繋がる取組が進められた。 ③目標以上の箇所対策が図られたが、危険木対策を必要とする箇所は依然として多く、第4期においては市町村森林整備支援事業で継続して取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

事業区分	①-2 防災・減災対策緊急治山事業 ・地すべり防止施設管理サポート事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	R3 ~ R4	E-mail	shinrini@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画 (しあわせ信州創造プラン2. 0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・台風による豪雨等により、山地災害が発生するリスクが高まっている。家屋、生活道路やライフラインに影響がある山地災害が発生した場合、県民生活に直結する事態であり、緊急に対応する必要がある。 ・台風に伴う暴風雨等により倒木や危険木が数多く発生している。防災・減災の観点において二次災害を防止するため、事前に森林整備を実施する必要がある。 ・近年の異常気象等により山地災害が発生するリスクが高まりをみせている中、これまで以上に地すべり防止施設の日常的な見廻りやきめ細やかな維持管理が必要である。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ①災害発生時に迅速な対応をとることで、下流保全対象への被害防止や軽減を図る。 ②地すべり防止施設の点検・維持管理を実施することで、地すべり防止施設の適切な効果発現に寄与し、地すべりの再発を未然に防ぐ。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年8月大雨、9月大雨による災害時等に応急対策を実施し、保全対象への被害防止・軽減を図った。 ・保全対象に影響を及ぼす恐れのある荒廃森林において緊急的に森林整備を行い、災害の未然防止を図った。 ・地すべり防止施設の点検や維持管理を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	①森林整備及び応急対策 ②地すべり防止施設点検・維持管理	長野県	①森林整備及び応急対策:18箇所 ②地すべり防止施設点検・維持管理:8箇所	35,792,000円 [35,792,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越				0	0	0
当初予算					36,000	36,000	72,000	
補正予算						0	0	
合計(A)					36,000	36,000	72,000	
Aの財源	森林税				36,000	36,000	72,000	
	国庫支出金				0	0	0	
	その他				0	0	0	
決算額(B)					35,995	35,792	71,787	
次年度への繰越額(外数)					0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①森林整備及び応急対策 ②地すべり防止施設点検・維持管理	目標値	①			40箇所	20箇所	設定なし	
		②			5箇所	10箇所	設定なし	
		③						
	実績値	①			17箇所	18箇所	35箇所	
		②			5箇所	8箇所	13箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ①県下18箇所で、災害発生時の応急対策等を実施し、保全対象への被害防止や災害の未然防止を図った。 ②県下8箇所で地すべり防止施設の点検・維持管理を実施した。</p> <p>(副次的な効果) ・荒廃山地の適切な復旧を図ることで、CO2吸収に貢献した。 ・地元住民に地すべり防止施設の点検・維持管理を委託することで、住民の防災意識向上につながった。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> ①2年間で35箇所の森林整備や応急対策等を実施し、災害発生時の保全対象への被害防止・軽減や災害の未然防止が図られた。 ②地すべり防止施設の点検・維持管理を実施することで、地すべり防止施設の適切な効果発現が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①応急対応という特性上、災害等の規模により箇所当たりの事業費が大きくなることもあったが、緊急・突発的事象に対する迅速な対応により、住民の不安軽減に寄与した。 ②地すべり防止区域の維持管理による災害の未然防止により、保全対象への被害防止・軽減に寄与した。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

②河畔林整備事業		部局	建設部	課・室	河川課
		実施期間	H30～	E-mail	kasen@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	河川区域外の民地等の立木(河畔林)は、所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、細く倒れやすい木が密生し、豪雨時に倒れ流出し、橋梁部で川をせき止めるなど、水害の発生要因となる恐れがある。
目指す姿・成果目標	防災強化が必要な河畔林の整備 ①概ね75箇所程度/5年間(県管理河川) ②概ね100箇所程度/5年間(市町村管理河川)

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	防災強化が必要な河畔林のうち、災害時の危険性が高い箇所の河畔林の除間伐を推進			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	河畔林の整備	長野県、市町村	県管理河川の河畔林整備 5箇所 市町村管理河川の河畔林整備 7箇所	20,000,000円 [20,000,000円]

事業コード	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	20,286	4,313	38,527	0	63,126
当初予算		112,500	112,500	178,650	60,000	20,000	483,650		
補正予算		-5,600	0	0		0	-5,600		
合計(A)		106,900	132,786	182,963	98,527	20,000	541,176		
Aの財源	森林税		106,900	132,786	182,963	98,527	20,000	541,176	
	国庫支出金		0	0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	0	
決算額(B)			83,141	128,464	144,436	98,527	20,000	474,568	
次年度への繰越額(外数)			20,286	4,313	38,527	0	0	63,126	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考		
①県管理河川の河畔林の整備 ②市町村管理河川の河畔林の整備	目標値	①	9箇所	13箇所	14箇所	20箇所	5箇所	75箇所	目標値の合計(①75箇所②100箇所)は、R2年度までの実績を考慮し、R3年3月に改訂したもの。(上方修正)	
		②	15箇所	15箇所	22箇所	20箇所	6箇所	100箇所		
		③								
	実績値	①	13箇所	20箇所	21箇所	24箇所	5箇所	83箇所		R3実績にはR2からの繰越10箇所含む
		②	21箇所	23箇所	33箇所	23箇所	7箇所	107箇所		
		③								

目標に対する成果の状況	(達成状況) ①②ともに、計画的に事業を実施し、成果目標を達成することができた。 (副次的な効果) 河畔林を除間伐したことで、農村風景の景観向上や市街地への獣の移動経路を阻害する対策に繋がる等の効果が得られた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	・5年間で県管理河川83箇所、市町村管理河川107箇所のいずれも目標値以上の箇所で河畔林の除間伐を実施し、水害の発生要因となる恐れが大きく、緊急的に対応が必要な箇所への対処ができた。	・河畔林の除間伐等を実施することにより、増水・洪水時の流木被害の危険性を低減した。 ・地域からは、防災・減災効果だけでなく、景観改善や森林の見通しがよくなることによる野生鳥獣対策への評価もあり、副次的な効果も得られた。 ・第4期では「市町村と連携した森林等に関する課題の解決」の支援として、市町村管理河川の河畔林整備を支援する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

③県民協働による里山整備・利用事業 (里山整備利用地域活動推進事業)		部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2, 0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	過疎化・高齢化が進む山村地域で里山を保全するには、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化の抑制につながるような権利の調整を行いつつ、間伐等の整備を推進することが有効であり、こうした活動を県内全域で展開していくことが必要。
目指す姿・成果目標	住民協働による里山の整備を促進するとともに、木材利用をはじめとする多面的な森林資源の利活用を進めることで、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築する。 【成果目標】 ①里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間 ②里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数 約150地域/5年間

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	里山整備利用地域における地域住民等の主体的な参画により、薪利用や森林を活用した教育活動など、里山の整備・利活用を推進。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	森林を活用した地域活動 (森林の調査、研修会、調査・計画作成等)	里山整備利用推進協議会	6地域	23,891,000 円 [23,891,000 円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		9,800	18,050	44,000	42,000	32,382	146,232	
補正予算		-3,000	0		3,700	-7,700	-7,000	R3は流用による増
合計(A)		6,800	18,050	44,000	45,700	24,682	139,232	
Aの財源	森林税	6,800	18,050	44,000	45,700	24,682	139,232	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	4,744	23,731	41,946	44,820	23,891	139,132	R3は他事業からの流用2,820千円含む	
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備利用地域の認定 ②里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数	目標値	①	50地域	52地域	30地域	20地域	20地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
		②	30地域	30地域	30地域	35地域	27地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
		③							
	実績値	①	42地域	36地域	20地域	4地域	3地域	105地域	
		②	24地域	25地域	34地域	12地域	6地域	101地域	
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) ①住民等で構成される協議会の設立に時間を要したこと等により、R4年度の認定数は3地域(累計105地域)となり目標達成に至らなかった。 ②令和4年度で47地域(新たに取組が始まったのは6地域)で地域活動や利活用の取組が進められたが、新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動が行えず目標達成には至らなかった。 (副次的な効果) 里山整備利用地域での地域活動の認知度が高まってきたことにより、各地域で様々な取り組みが進んでいる。取組が進むことにより、他地域の取組を自らの地域の課題解決の参考にするなど、良い循環が生まれている。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

事業実施によりどのような成果がみられたか。	成果	評価
	5年間に101地域の里山整備利用地域において、地域認定に係る活動や、里山の利活用の取組(研修会や里山を利用した活動)の支援を行い、地域住民による自立的・持続的な里山整備や利活用の体制を構築につなげることができた。	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、地域活動が実施できず合意形成等に時間を要したこと等から、目標達成には至らなかったが、認定地域数は県下で100地域を超え、地域主体により里山を利活用する取組が県内各地で広がった。 ・第4期では、これまで地域住民が自ら整備・利活用に取り組んできた里山について、より多くの県民等が利用できる「開かれた里山」としての仕組みづくりや、そのための整備等を進める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

③県民協働による里山整備・利用事業 (里山資源利活用推進事業)		部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 山村地域の里山の保全には、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化を抑制しつつ森林整備を図ることが重要。 住民共同による里山の整備を促進するとともに、木材利用や、教育、観光等の多面的な森林資源の利活用を進める事で、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築していく事が必要であり、資機材の導入支援や遊歩道の整備も必要。
目指す姿・成果目標	①里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間 ②里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数 約150地域/5年間 【取組により期待される効果】 ・間伐材の搬出量の増加、路網整備の促進 ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化、人材育成 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	資機材等の導入(チェーンソー、薪割り機、簡易ウィンチ、移動式トイレ等)遊歩道の整備	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定 3地域 事業利用地域6地域	5,729,250円 [5,729,250円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0	0	0	
予算額	当初予算	33,750	26,350	22,050	20,700	8,748	111,598	
	補正予算	-26,000	-17,450	-5,050	-6,900	-2,500	-57,900	R3は流用による減
	合計(A)	7,750	8,900	17,000	13,800	6,248	53,698	
Aの財源	森林税	7,750	8,900	17,000	13,800	6,248	53,698	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		7,111	8,515	16,508	13,661	5,729	51,524	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考		
①里山整備利用地域の認定 ②里山の整備・利活用に 取り組む里山整備利用 地域数	目標値	①	50地域	52地域	30地域	20地域	20地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
		②	30地域	30地域	30地域	35地域	27地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
		③							
	実績値	①	42地域	36地域	20地域	4地域	3地域	105地域	
		②	24地域	25地域	34地域	12地域	6地域	101地域	
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) ①住民等で構成される協議会の設立に時間を要したこと等により、R4年度の認定数は3地域(累計105地域)となり目標達成に至らなかった。 ②認定利用地域のうち、15地域(新たに取組が始まったのは6地域)で里山整備に必要な初期の資機材導入等(刈り払い機、チェーンソー、歩道整備等)に対して支援を行った。 (副次的な効果) 里山の利活用を実施していく上で課題となっていた資機材の導入に対して支援を行ったことで、安全かつ持続的に活動を進める基盤が整った。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	5年間に101地域の里山整備利用地域で、里山の利活用に必要な支援(資機材導入、歩道整備等)を行うことで、地域住民による自立的・持続的な管理体制を構築することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、地域活動が実施できず合意形成等に時間を要したこと等から、目標達成には至らなかったが、認定地域数は県下で100地域を超え、地域主体で里山を利活用する取組が県内各地に広がった。 第4期では、より多くの県民等が里山の森林に親しむことができるよう「開かれた里山」としての仕組みづくりや整備を進める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

④地域で進める里山集約化事業		部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30 ~ R4	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 里山の小規模個人有林等の整備を効率的かつ効果的に進めるためには、境界の明確化や森林所有者の同意取得を行い、施業を集約化するための条件整備が必要。 所有者の不在村化や境界の不明瞭などにより施業の集約化が困難な場合も存在するため、小規模個人有林等の整備を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	①防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 【取組により期待される効果】 ・森林整備の実施を通じた防災意識の向上(里山整備実施者の増加) ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、森林整備実施予定地の森林所有者の合意形成等を推進した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 整備が必要な里山等の集約化 森林境界の明確化 	森林組合、森林所有者の団体等	<ul style="list-style-type: none"> 里山等の集約化 105ha 	1,576,500円 [1,576,500円]

事業	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0	0	0	0
予算額	当初予算	14,400	8,000	5,600	6,750	6,750	41,500	
	補正予算	-9,100	-3,700		-2,250	-4,500	-19,550	
	合計(A)	5,300	4,300	5,600	4,500	2,250	21,950	
Aの財源	森林税	5,300	4,300	5,600	4,500	2,250	21,950	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		4,911	3,941	5,017	3,726	1,577	19,171	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 ③(参考)本事業による集約化実施面積	目標値	① 1,290ha	1,800ha	950ha	795ha	795ha	4,300ha	
		② 150ha	232ha	303ha	375ha	450ha	1,500ha	
		③ 900ha	500ha	350ha	450ha	450ha	設定なし	
	実績値	① 115ha	803ha	808ha	636ha	331ha	2,693ha	
		② 10ha	59ha	81ha	95ha	114ha	359ha	
		③ 324ha	263ha	333ha	247ha	105ha	1,272ha	

目標に対する成果の状況	(達成状況) ③新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた地区説明会等が実施できず、同意取得が進まなかった地域もあり、集約化面積は105haに留まり目標には達しなかった。 (副次的な効果)
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> 里山の森林所有者の同意取得等を支援することで、集約化を進めた。 5年間で1,272haの里山等の集約化等を実施し、小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地域活動が実施できなかったこと等により想定していた面積を下回ったが、里山の整備が進みにくい要因となっていた小規模個人有林等の集約化等が進んだことで、里山の森林整備が進展した。 第4期では、里山の利活用を一層推進するために必要となる地域の合意形成等への支援を行っていく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

事業区分	⑤地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (「子どもの居場所」木質空間整備事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30 ~ R4	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長により良い効果をもたらすとされていることから、児童センターや商業施設のキッズルーム等の「子どもの居場所」の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの居場所の木造・木質化:概ね30箇所程度/5年間 ②子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置:概ね240箇所程度/5年間 <p>【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進</p>

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	事業主体が運営する保育園・幼稚園・子育て支援センター、複合商業モール・飲食店等のキッズスペース等の「子どもの居場所」について、木造化・内装木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ①木造・木質化(補助率2分の1以内、上限補助対象事業費499万円) ②木の調度品・おもちゃ等設置(同4分の3以内、同50万円) 	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	<ul style="list-style-type: none"> ①5箇所 ②54箇所 	19,757,687円 [19,757,687円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予 算 額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		23,750	23,750	21,500	21,500	21,500	112,000	
補正予算		-2,500	-2,841	-1,000	0	-1,300	-7,641	
合計(A)		21,250	20,909	20,500	21,500	20,200	104,359	
Aの 財源	森林税	21,250	20,909	20,500	21,500	20,200	104,359	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決 算 額(B)		20,579	20,908	20,405	23,884	19,758	105,534	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①子どもの居場所の木造・木質化 ②子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置	目 標 値	①	5箇所	5箇所	5箇所	8箇所	6箇所	30箇所	①目標値は概ね30箇所/5年間
		②	30箇所	30箇所	30箇所	75箇所	30箇所	240箇所	②目標値は概ね240箇所/5年間
		③							
	実 績 値	①	7箇所	9箇所	6箇所	9箇所	5箇所	36箇所	
		②	57箇所	59箇所	60箇所	60箇所	54箇所	290箇所	
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 保育園・幼稚園・児童センター等を中心に、木造・木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置、いずれのメニューも目標の箇所数を上回る又は概ね同等の実績となった。</p> <p>(副次的な効果) 市町村等が事業主体となることで、1施設あたりの事業規模は大きくないものの、当該市町村内の多くの施設(保育園・子育て支援センター等)に事業を活用していただくことができた。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成 果	評 価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<p>子どもの居場所に対し、①木造・木質化及び②木の調度品・おもちゃ等設置あわせて326箇所での取組を支援し、木材に触れ合う機会・場を創出することができ、県産材利用への意識醸成と木材需要の創出が図られた。</p>	<p>・木材に触れる機会が増えることにより、特に子どもや保護者に対する木材の魅力発信に繋がった。</p> <p>・5年間では予算を上回る要望があり、ニーズは依然として高いことから、一部見直しを行い、第4期においても県産材利用への意識醸成と木材需要の創出のため、継続して事業に取り組む。</p>

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑤地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木工体験活動支援事業)		部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～R4	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	・県産材を身近な環境で積極的に活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長に効果をもたらすとされていることから、県産材と身近に触れ合うための木製品づくり体験を支援していくことが重要。
目指す姿・成果目標	木工工作コンクール応募者数 概ね5,500人程度/年(2022年度) 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	県内全域の小中学生等を対象とした木工体験活動(木工工作コンクール、木工教室等)や、小中学校や地域団体が行う木や森への理解を深める木工体験活動を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	①県域活動型(補助率4分の3以内・上限補助対象事業費105万円) ②地域活動型(同4分の3以内・同50万円)	①長野県木材青壮年団体連合会 ②市町村・学校・林業者団体・NPO法人等	①木工工作コンクールの開催支援等:1件(木工工作コンクール応募者数4,019人) ②県内各地の木工体験活動の支援:25件	6,825,000円 [6,825,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		7,050	8,550	8,250	7,400	7,400	38,650	
補正予算		-150	0	-1,000	0	0	-1,150	
合計(A)		6,900	8,550	7,250	7,400	7,400	37,500	
Aの財源	森林税	6,900	8,550	7,250	7,400	7,400	37,500	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		6,692	7,756	7,041	6,346	6,825	34,660	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計	備考
①木工コンクール応募者数	目標値	① 5,500人	5,500人	5,500人	5,500人	5,500人	
		②					
		③					
	実績値	① 4,608人	4,307人	2,913人	4,347人	4,019人	
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	(達成状況) 児童の減少や協力学校の固定化により、応募者数は目標人数に達しなかった。 (副次的な効果) 子ども主体の活動であるが、付き添いの大人に対しても木工体験の場を提供することができ、県産材利用の意識醸成を図ることができた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

事業実施によりどのような成果がみられたか。	成果	評価
	・5年間累計で木工工作コンクールの応募者は20,194人を数え、多くの子どもたちに木工工作を通じて、木の良さを体感してもらうことができた。 ・地域活動支援によって、5年間で126件の木工体験活動の支援を行うことで、木工体験を通じて木育の推進が図られた。	・木工工作や木工体験を通じて、子どもだけでなく、付き添いの大人に対しても県産材利用の意識醸成を図ることができた。 ・児童の減少や協力学校の固定化により目標値に対して未達ではあるものの、木育の推進へのニーズは依然として高いことから、第4期においても「県全域にわたる木工体験活動支援と木工工作コンクールの支援」を、継続して取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑤地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木づかい空間整備事業)		部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	R2 ~ R4	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材利用の意識の向上のためには、身近な場所かつ波及効果が高い場所に県産材を利用し、県民に県産材の良さを体感してもらうことが重要。 新型コロナウイルスへの対策として、テレワークオフィス等の社会情勢に対応した新たな就業環境の整備や、ウィズコロナに対応した「DIY」による内装整備に注目が集まっていることから、オフィスや店舗等、多くの県民が利用する県有施設の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	①オフィス・店舗等の木質化:概ね24箇所程度/3年間 ②多くの県民が利用する県有施設の木質化:概ね11箇所程度/3年間 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	・事業主体が運営するオフィス・店舗等の既存施設のモデル的な内外装の木質化、木の調度品等の設置を支援。 ・県民の利用頻度の高いスペースの木質化、木の調度品等の設置を推進。		
	事業内容	事業主体	事業実績
	①オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、調度品の設置 ②多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	①6箇所 ②1箇所
			令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
			13,350,928円 [13,350,928円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越			0	0	0	0
当初予算				40,800	49,350	32,250	122,400	
補正予算				-9,500	-22,600	-17,493	-49,593	R3は流用による減
合計(A)				31,300	26,750	14,757	72,807	
Aの財源	森林税			31,300	26,750	14,757	72,807	
	国庫支出金			0	0	0	0	
	その他			0	0	0	0	
決算額(B)			30,425	22,508	13,351	66,284		
次年度への繰越額(外数)			0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、調度品の設置 ②多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置	目標値	①		8箇所	11箇所	8箇所	24箇所	①目標値は約24箇所/3年間
		②		3箇所	3箇所	2箇所	11箇所	②目標値は約11箇所/3年間
		③						
	実績値	①		4箇所	7箇所	6箇所	17箇所	
		②		6箇所	3箇所	1箇所	10箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ①オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、木の調度品の設置は、事業の募集時期により工期が制約されたため、目標の箇所数8箇所のところ、6箇所に留まり目標未達成となった。 ②多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置は設計変更により対象箇所は1箇所となり、目標に達しなかった。 (副次的な効果) モデル性の高い木質空間の整備を促進することで、多くの県民の皆様が木の良さを体感でき、県産材利用への波及効果へつながった。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	3年間で広く県民が利用する施設に対し、27箇所での木造・木質化木等を実施し、木材に触れ合う機会・場を創出することができ、県産材利用への意識醸成と木材需要の創出が図られた。	・令和2年度からの3年間では、募集時期による工期の制約等により目標を下回った。 ・木質化等の取組支援はニーズがあり、県産材利用を促進するモデルとしての役割もあることから、利用しやすいように一部見直しを行い、第4期においても、県産材利用への意識醸成と木材需要の創出のため、継続して取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑤地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (県産材公共サイン整備事業)		部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～R4	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出した間伐材等を身近な環境で積極的に活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・本格的な“インバウンド大県”を目指しているが、県内観光地等の外国人観光客向け案内標識は十分に整備されていない。 ・森林県長野として、観光地や県産材の魅力を国内外に広くアピールしているとは言い難い状況。
目指す姿・成果目標	県産材の魅力を発信しつつ、外国人観光客等の利便性の向上を図る。 【成果目標】 県産材公共サイン等設置枚数:概ね250枚程度/5年間

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	事業を募集した結果、応募のあった2市村の案内標識の作成を支援			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	県の方針に基づき、事業実施主体が設置する案内標識整備について、県産材利用を促すため、設計や製作に係る経費を支援	市町村 民間事業者等	案内標識44枚	3,391,003円 [3,391,003円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		10,540	10,000	23,025	10,000	5,000	58,565	
補正予算		-7,000	-1,000	-9,000	-6,000	-1,500	-24,500	R3は流用による減
合計(A)		3,540	9,000	14,025	4,000	3,500	34,065	
決算額(B)	森林税	3,540	9,000	14,025	4,000	3,500	34,065	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		2,837	179	3,010	3,203	3,391	12,620	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①県産材公共サインの作成	目標値	①デザイン作成	63枚	63枚	117枚	42枚	250枚	H30年度は調査委託 R元年度以降は補助 ①目標値は概ね250枚/4年間
		②						
		③						
	実績値	①基礎調査	6枚	10枚	41枚	44枚	101枚	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・目標を上回る44枚の県産材を活用した公共サインの作成を支援し、観光地等に設置された。 (副次的な効果) 観光客だけでなく、地元住民に対しても分かりやすい公共案内標識を設置することで、来訪者の増加や県産材の魅力発信に繋がった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	5年間で15市町村で101枚の県産材を活用した公共サインを設置し、モデル的に外国人観光客に配慮した案内標識の整備を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施を予定していた市町村において、予算を新型コロナウイルス感染症対策に優先的に執行しており、本事業の実施が先送りとなったことから、目標値には達しなかった。 ・観光地に県産材を活用した公共サインを設置したことにより、観光客だけでなく地元住民に対する利便性向上に寄与するとともに、地域内外への県産材の魅力発信にも繋がった。 ・モデル的な公共サイン整備を実施し、県産材用途の拡大に寄与した。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

事業区分	⑥薪によるエネルギーの地消地産推進事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30 ~ R4	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画 (しあわせ信州創造プラン2. 0)					
8つの重点目標	再生可能エネルギー自給率				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 木材の地産地消や地消地産を推進する観点で、薪を流通させるための仕組みづくり等により里山資源をバイオマスエネルギーとして活用するための仕組みづくり等が必要。
目指す姿・成果目標	薪流通の仕組構築モデル件数: 概ね10件程度/5年間 【取組により期待される効果】 身近な里山資源である薪が継続的に利用される仕組みを構築することにより、薪のさらなる普及を図り、里山の利活用を促進し、里山の持続的かつ自立的な維持管理を実現する。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	県内1地域において、本事業により薪の流通システム構築への取組を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 薪の先進地視察等 必要な機材の購入費 各種講習会・セミナーの開催 	市町村、NPO法人、公共的団体、林業者等が組織する団体等	・NPO法人あち森が事業主体となり、1地域で実施	1,308,000円 [1,308,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		3,750	3,750	3,750	3,750	3,750	18,750	
補正予算		0	-2,400		-2,800	-2,400	-7,600	R3は流用による減
合計(A)		3,750	1,350	3,750	950	1,350	11,150	
Aの財源	森林税	3,750	1,350	3,750	950	1,350	11,150	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	3,664	1,264	3,482	872	1,308	10,590		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①薪流通の仕組構築モデル件数	目標値	①	2件	2件	2件	2件	10件	
		②						
		③						
	実績値	①	3件	1件	3件	1件	1件	9件
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 事業実施に向け調整を行ったが、地域の合意形成には至らず、目標に達しなかった。 (副次的な効果) 地域活動の中で、地域の取り組みへの意欲が高まるとともに、繋がりが強まった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> 薪流通の仕組構築のモデル地区を、5年間で9箇所実施、県内における持続可能な里山利活用の手法が構築された。 地域内に新生産の拠点が整備され、機械導入等が進んだことで増産体制が強化された 実施箇所はモデル事例として県HPへ掲載し、他地域での取組への波及等に向けた情報発信を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組実施に際して、地域内の合意形成には至らず実施見送りとなった地域があったことから、目標に達しなかった。 里山の自立的・持続的な維持管理を図るため、身近な里山資源である薪を継続的に利用する仕組みの構築に寄与した。 第4期事業では、第3期事業の成果を活かし、「開かれた里山の整備・利用推進事業」等において地域での薪流通体制整備等の支援に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑦森林病虫害被害枯損木利活用(チップ化)事業		部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H30～R4	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	山林に放置され、有効活用されていない松くい虫等森林病虫害被害枯損木の利活用が課題。枯損木は、水分が少ないため木質バイオマスの燃料チップとしての活用が有効。
目指す姿・成果目標	森林病虫害枯損木処理量7,000m ³ /2年間 【取組により期待される効果】 景観を損ねていた松くい虫等森林病虫害被害林が整備されることで、他の地域の整備に対する意欲の高揚と木質バイオマス資源としての有効活用が促進。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	市町村等が行う対象森林の調査、松くい虫等森林病虫害被害枯損木の伐倒・搬出、木質バイオマス燃料等の資源化に対する取組に支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	・松くい虫等森林病虫害被害枯損木の伐倒 ・チップ化施設への伐倒木運搬	市町村、林業事業体	519m ³	8,000,000円 [8,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当初予算	18,000	18,000	18,000	100,000	8,000	162,000		
	補正予算	-11,434	-7,476	-18,000		0	-36,910		
	合計(A)	6,566	10,524	0	100,000	8,000	125,090		
Aの財源	森林税	6,566	10,600	0	100,000	8,000	125,166		R2は財源を新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用(※)
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		
	決算額(B)	6,566	10,524	0	100,000	8,000	125,090		
	次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①取組を行う市町村 ②森林病虫害枯損木処理量	目標値	① 10市町村	10市町村	10市町村			51市町村	R2実績値は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金による(参考値)
		②			3,500m ³	581m ³	7,000m ³	
	実績値	① 5市町村	6市町村	11市町村			33市町村	
		(実数累計4市町村)	(実数累計7市町村)	(実数累計13市町村)			(実数累計13市町村)	
	②			8,937m ³ ※	5,732m ³	519m ³	6,251m ³	

※森林病虫害被害枯損木の利活用に係るモデル的な取組を支援してきたところ、新型コロナウイルス感染症の発生により林業をとりまく状況が変化し、製材や合板に使用する丸太の需要が激減したことにより、林業事業体において従事者の業務確保が困難となったことから、需要が旺盛なチップの活用を図る当事業について令和2年度のみ当該交付金を活用し、林業従事者の仕事の確保を図った。

目標に対する成果の状況	(達成状況) ②令和4年度の実施箇所では、家屋や道路に近接し特殊伐採が必要な箇所があるなど、通常より実施に経費を要したことから、処理量が目標に達しなかった。 ※令和2年度から県内の木質バイオマス施設へ効率的に枯損木を供給するため、事業主体に林業事業体を追加し、枯損木の処理と利活用を推進した。 (副次的な効果) 枯損木による倒木被害や景観改善にも寄与した。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	5年間で6,251m ³ (新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金による実績を含む)と15,188m ³ の枯損木を伐倒・チップ化し、木質バイオマス燃料としての利用を促進したことにより、放置された枯損木の有効活用が図られた。	②木質バイオマス燃料として有効活用が図られるとともに、家屋や道路上に倒木となる恐れがある枯損木を処理することにより、生活の安全性確保にも繋がった。 ・5年間では予算を上回る要望があり、ニーズは依然として高いことから、第4期においては「市町村と連携した森林等に関連する課題の解決」に係る取組として、継続して事業に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

	⑧里山整備利用地域リーダー育成事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2, 0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	山村地域における過疎化や高齢化等が急速に進行し、森林管理の空洞化も深刻さを増していることから、住民協働による里山の整備・利用を推進することが必要であり、それを支える地域の人材の活用と育成が重要である。
目指す姿・成果目標	森林の整備や多面的利活用を推進するリーダーや多くの関係者をコーディネートする人材を育成するとともに、NPOや自主的な森林づくりに取り組む方々など森林づくりに関わる人々の力を結集し、地域主体の持続的な森林の整備利用を推進する。 ①地域リーダーの育成 概ね150人程度/5年間 ②森林の整備利用に携わる人材の育成 概ね4,500人程度/5年間

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の利活用や木育など、多様なテーマを設定した研修会を開催した。 ・地域リーダーとなる人材をはじめ、里山管理活動を担う地域住民も参加した安全技術取得のための研修を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	地域リーダー、里山管理人材の育成研修	長野県	研修会 36回	3,333,000円 [3,333,000円]

事業	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越	0	0	0	0	
コスト	当初予算	2,751	2,611	2,621	3,119	3,342	14,444	
	補正予算	-1,340	-521			0	-1,861	
	合計(A)	1,411	2,090	2,621	3,119	3,342	12,583	
	Aの財源	森林税	1,411	2,090	2,621	3,119	3,342	12,583
		国庫支出金	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0
決算額(B)	623	1,651	2,585	3,080	3,333	11,272		
	次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①地域リーダー ②里山管理利用人材	目標値	①	30人	30人	30人	40人	30人	
		②	900人	900人	900人	1,200人	900人	4,500人
		③						
	実績値	①	30人	20人	63人	26人	24人	163人
		②	220人	739人	317人	543人	589人	2,408人
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 県内各地において、研修・講習会等をWeb開催も取り入れて合計36回開催し、参加者は延べ589人となり2年連続で増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、①・②ともに年度目標達成には至らなかった。</p> <p>(副次的な効果) ・参加者へ実施したアンケート調査の結果から、森林に対する関心事、ニーズを知ることができた。 ・過去に講習を受けた方が、今度は講師側に回るなど、技術や知識の伝承が見られる。 ・林業士が講師を務めることがあり、活躍の場の一つとなっている。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<p>①森林整備や安全衛生管理、特用林産など多様な研修・講演を実施し、5年間で延べ2,408人の参加者が知識・技術の向上を図った。</p> <p>②伐木造材指導力向上研修やまつたけ指導者研修会など、地域リーダー育成のための研修・講演を実施し、5年間で合計163人の参加者が地域リーダーとしての資質の向上を図った。</p>	<p>①各里山整備利用地域において企画される研修会等でも、地域リーダーが講師を務めるケースもあるなど、地域における知識・技術の継承にも繋がった。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症拡大の影響による規模の縮小や、里山整備利用地域の認定数に比例して実績は目標を下回った。 ・地域が自発的に研修を企画・開催することで、森林整備や安全衛生管理に加え、きのこ、山菜、炭焼き、精油など多様なニーズに応えることができた。</p>

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑨森林セラピー推進支援事業		部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成、4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2. 0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	本県の豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、多様な県民ニーズに応え、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。とりわけ、「森林セラピー」は、農林業・観光・医療の各分野の連携が可能であり、森林の利活用と地域の活性化策として期待されている。
目指す姿・成果目標	全国65箇所の基地のうち、県内に10箇所(最多)が所在する「森林セラピー県」として、森林セラピーの利用を促進するため、関連する産業(観光、健康、環境、産業)との連携の強化とセラピー基地等の魅力向上を図る。 ①コーディネーターの育成 ②森林セラピー基地の整備 全10箇所/5年間

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地等協議会を開催し、基地間の情報共有を図るとともに、人材育成や施設整備の方向性等の検討を行った。 森林セラピーのコーディネーター等の育成プログラムやガイドツールの開発・制作を行うとともに、基地の安全性と利便性の向上を図るための修景林整備(支障木等の伐採)や歩道・看板・多目的バイオマストイレ等の施設整備を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地等協議会開催 ガイド、コーディネーター等人材育成研修会の開催 施設整備 	長野県市町村	<ul style="list-style-type: none"> 協議会:2回 ガイド、コーディネーター等人材育成研修の開催計5回 施設整備:6箇所 	8,695,422円 [8,695,422円]

事業コスト	区分(単位:千円)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	0
	当初予算	17,521	38,309	20,700	15,916	9,138	101,584		
	補正予算	0	-21,272	-3,040	-1,132	0	-25,444		
	合計(A)	17,521	17,037	17,660	14,784	9,138	76,140		
Aの財源	森林税	17,521	17,037	17,660	14,784	9,138	76,140		
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		
決算額(B)	16,662	12,656	16,770	13,243	8,695	68,027			
	次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①コーディネーター育成 ②森林セラピー基地の整備	目標値	①				▶	10人		
		②	実施4箇所	実施9箇所	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所	10箇所	
	実績値	①	-	-	-	-	-	10人	
		②	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所	実施のべ24箇所	
		(実数累計6箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)	重複を除いた実数の累計	

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ①ガイド及びコーディネーター育成研修を計5回開催、②森林セラピー基地整備は6箇所において実施し目標を達成した。 ・森林セラピー基地等協議会において、上松町の取組や森林セラピーの最先端の研究報告の講演などで情報共有を図り、次年度にむけ各基地取組へのつながりの強化が図られた。</p> <p>(副次的な効果) ・研修及び施設整備の実施により、各基地の利用者受け入れ体制の整備が進んでいる。 ・コーディネーターやガイドを活用した森林セラピー基地の利用者は増加傾向(H29 6,500人→H30 7,023人→R元 7,195人)にあったが、R2についてはコロナ禍の影響で2758人と4割まで減少。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> 県下10箇所のセラピー基地のうち、整備を必要とする8基地の取組を支援することで、森林セラピー基地の魅力向上に繋がった。 ガイド及びコーディネーター育成研修などを開催するとともに、ガイドツールを作成・普及することで、県内基地におけるサービス品質の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地数は全国1位を誇り、基地では整備が進んだことにより、魅力あるフィールドがある一方で、山村地域の過疎化や高齢化等により、森林資源をどのように活用すればよいか悩む森林所有者、市町村等も多い。 このため、第4期においても、関連産業との連携や地域特性を生かした受け入れ体制を整備すると共に、良質なサービスを提供する人材育成を引き続き進めていく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

	⑩エコツーリズムガイド人材育成事業	部局	環境部	課・室	自然保護課
		実施期間	R1 ~	E-mail	shizenhogo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり 4-5 地球環境への貢献				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要 エコツーリズムなど、森林資源を有効に活用し、観光や健康、環境、教育等の他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出できる人材を育成することが必要
目指す姿・成果目標	エコツーリズムガイドの育成 80名/4年間 【取組により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境保全意識の向上 周遊型観光の促進と県内知名度の向上

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	森林をはじめとした自然資源を持続的に活用できる人材を育成し、自然体験の機会の充実を図るため、エコツーリズムガイド育成研修会を美ヶ原自然保護センターで開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業実施を中止。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	エコツーリズムガイド研修会の開催	長野県	・研修会開催:3日間	1,879,300円 [1,879,300円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0	0	0
当初予算			1,672	1,564	1,979	1,880	7,095	
補正予算			0	-1,564	-1,979	0	-3,543	
合計(A)			1,672	0	0	1,880	3,552	
Aの財源	森林税		1,672	0	1,979	1,880	5,531	
	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	決算額(B)		1,540	0	0	1,879	3,419	
	次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①エコツーリズムガイドの育成	①				→	80名	
	②						
	③						
実績値	①		29名	0名	0名	7名	36名
	②						
	③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 30名のエコツーリズムガイドの人材育成を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより参加者は7名にとどまった。 (副次的な効果)
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	4年間で2回の研修会(令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)を実施し、エコツーリズムガイドの基礎知識から実践的手法まで幅広い知識を習得した36名のガイド人材を育成した。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会の中止及び開催規模の縮小をしたため、目標値を達成することはできなかった。 県内各地でエコツーリズムを推進し、森林をはじめとする自然資源を持続的に活用するため、第4期においても、ガイドの育成に継続して事業に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑪自然教育・野外教育推進事業		部局	教育委員会	課・室	学びの改革支援課
		実施期間	R1 ~ R4	E-mail	kyogaku@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成				
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進 1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 自然豊かな長野県に住んでいても、子供の自然体験の頻度は全国と同じ。 家の中で、体力を使わず、他者との交流が少ない時間を多く過ごしている。 子供の学校外での自然体験活動への参加は二極化し、経験の格差が広がる。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 信州ならではの豊かな自然を教育資源と捉え、幼保小中高を通じて自然の中での直接体験や仲間とのふれあい、自然からの学びをとおり、社会の急激な変化に適応し、たくましく「生き抜く力」を育成する。「自然を通して生き抜く力の育成」を目指す。 モデル的に自然教育プログラムを実施する学校30校/5年間

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	本県の強みである豊かな自然の特性を生かし、子どもたちの「自然を通して生き抜く力」「自然を大切にできる心」を育むため、モデル校において自然教育・野外教育プログラムの実践検証を行い、成果の普及を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> プログラム推進校が行う、プログラム実践及び発展的実践への外部指導者の派遣 プログラムの評価・検証・改善 	長野県教育委員会	プログラム推進校7校 有識者による検証会議	761,104円 [761,104円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0	0	0
当初予算			1,163	1,794	1,792	862	5,611	
補正予算			0			0	0	
合計(A)			1,163	1,794	1,792	862	5,611	
Aの財源	森林税		1,163	1,794	1,792	862	5,611	
	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
決算額(B)			241	285	478	761	1,766	
次年度への繰越額(外数)			0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①モデル校による自然教育・野外教育プログラムの実践検証	目標値	①	モデル校指定8校	プログラム推進校14校程度	プログラム推進校14校程度	プログラム推進校7校程度	30校	
		②						
		③						
	実績値	①	モデル校指定6校	プログラム推進校1校	プログラム推進校5校	プログラム推進校7校	19校	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・令和元年度から、プログラム推進校として、延べ19校が外部指導者(延べ87名を派遣)を活用した自然教育・野外教育に取り組んできた。「モデル校」の名称は令和2年度から「プログラム推進校」に改名)</p> <p>・令和4年度では、プログラム推進校7校で取組を実施し目標を達成した。</p> <p>(副次的な効果) ・これまでボランティアとして学校と関わってきている各種団体の外部指導者への支援を行った。</p> <p>・複数校に関わる団体や教育委員会等からの申込みや問い合わせがあった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> プログラム推進校において、プログラム実施検証を行った。 外部指導者の派遣により、専門的な知識を有する指導者によるアクティビティ等のプログラムを実施することができた。 事業の概要をまとめた「自然教育・野外教育アクティビティとプログラム集」、5年間の実践をまとめた「自然教育・野外教育プログラム実践例」を県教育委員会ホームページで公開・共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、学校に外部指導者を招聘することが難しく、実績値が目標値を下回った。 子どもたちの「自然を通して生き抜く力」「自然を大切にできる心」を育むために、自然教育・野外教育推進事業が重要な役割を果たしてきた。 実施プログラムを取りまとめ、モデルとして公開・共有することで、今後の更なる取組の波及や発展が期待される。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑫学校林等利活用促進事業		部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃に自然の中で遊んだりする経験が多いほど、自己肯定感が高くなる傾向があるという調査研究報告があることから、教育における森林の利活用を推進することが必要であり、手入れがされてこなかった学校林については、整備し利活用していくことが必要。 学校林は森林の多面的機能を学ぶ貴重な場であり、身近に森林がある本県の特徴を活かし、自然・野外教育を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	長期間未整備のため利用困難な学校林約60箇所程度/5年間の整備・利活用(令和3年3月改正) 【取組により期待される効果】 森林を活用した森林環境教育の充実及び安全性の確保

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒の森林・林業への親しみや理解を深め、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林を整備するとともに、整備後の学校林での活動を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	学校林の整備(除間伐等)・利活用	市町村、学校、PTA等	学校林の整備 17箇所 学校林の利活用 3箇所 (重複して実施している箇所があるため、全体では5箇所)	10,387,998円 [10,387,998円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		12,550	17,975	17,975	15,176	13,594	77,270	
補正予算		-8,000	-7,875	-3,250	-4,700	-2,600	-26,425	
合計(A)		4,550	10,100	14,725	10,476	10,994	50,845	
Aの財源	森林税	4,550	10,100	14,725	10,476	13,594	53,445	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	4,010	9,447	13,719	7,557	10,388	45,121		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①長期間未整備のため利用困難な学校林を整備	目標値	①	16箇所	16箇所	16箇所	29箇所	33箇所	60箇所
		②						
		③						
	実績値	①	6箇所	15箇所	23箇所	18箇所	20箇所	82箇所
		②(実数累計6箇所)	(実数累計19箇所)	(実数累計35箇所)	(実数累計42箇所)	(実数累計47箇所)	(実数累計47箇所)	重複を除いた実数の累計
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) <ul style="list-style-type: none"> 15校の学校林で危険木の伐採や除間伐等の森林整備を行い、児童・生徒が森林内で安全に活動できる機会が広がった。 整備後の学校林での活動に必要な資機材の導入や指導者の受入を11校で支援した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、学校林活動を予定どおり実施できなかった学校も多数あり目標達成に至らなかった。 (副次的な効果) <ul style="list-style-type: none"> 学校林整備の過程を児童・生徒が見学、体験することで、森林環境教育の機会となっている。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> 5年間で47校の学校林をフィールドにした活動を支援した。 児童・学生が森林林業等について学習しつつ、実際に森林整備を実施することで森林への関心が高まるとともに、一過性でない継続的な学習として、学校行事化された学校も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動を見送らざるを得ない学校もあり、目標達成に至らなかった。 カリキュラムや行事として継続した取組が行われる学校もあったほか、参加する教員等のノウハウも蓄積されたことから、今後は、他校への普及等、学習活動の拡大も期待される。 第4期においても、森林環境教育の支援に継続して取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑫自然保育活動フィールド等整備事業		部局	県民文化部	課・室	こども・家庭課
		実施期間	H30～	E-mail	katei-shien@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	合計特殊出生率				
総合的に展開する重点政策	5-4 若者のライフデザインの希望実現				

1 事業の概要

現状	県独自の制度である「信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度」による認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境の充実が必要。
目指す姿・成果目標	整備が必要な森林を自ら所有又は賃借して使用する認定園等、約25園程度/5年間の整備 【取組により期待される効果】 信州やまほいく認定園の増加

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備(林間整備、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、危険木の除去、倒木・折損木処理) ・東屋の設置、チップ敷き、歩道整備等 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道、木道整備 ・危険木の除去、ウッドチップ敷設 ・東屋の整備 等 	信州型自然保育認定園	フィールド整備 6箇所 付帯施設整備 1箇所	3,917,885円 [3,917,885円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		前年度繰越	0	0	0	0	0	
予 算 額	当初予算	5,325	5,325	5,325	5,325	5,000	26,300	
	補正予算	0	0			0	0	
	合計(A)	5,325	5,325	5,325	5,325	5,000	26,300	
Aの財源	森林税	5,325	5,325	5,325	5,325	5,000	26,300	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		4,623	4,602	4,668	4,785	3,918	22,596	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
信州やまほいく認定園の活動フィールドの整備 約25園程度/5年間	目標値	① 8園	8園	8園	8園	8園	40園	
		②						
		③						
	実績値	① 9園	5園(6カ所)	10園	8園	6園	32園	
		② (実数累計9園)	(実数累計2園)	(実数累計6園)	(実数累計3園)	(実数累計1園)	(実数累計21園)	重複を除いた実数の累計
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・要望があった6園でフィールド整備6箇所、付帯施設整備1箇所を実施した。 ・整備箇所の調整等で計画を再検討した結果、事業実施に至らなかった園があり、目標を下回った。</p> <p>(副次的な効果) 自然保育を行う上で障害となっている危険木の除去や、落下の恐れのある枝の剪定を行うことにより、子どもたちが安全に自然体験活動を行うことができるようになった。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成 果	評 価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間で21園においてフィールド等の整備を実施し、森林での保育・教育活動の安全性確保や、環境の充実が図られた。 ・毎年様々な園が整備を実施するほか、維持管理や複数年かけての整備など、複数回整備を実施する園もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドを保有していない園や借りているフィールドの整備に向けた調整がつかなかった園があり、目標達成に至らなかった。 ・森林での保育・教育活動の基盤の整備や充実化が図られたことにより、保育者の安全管理に係る負担軽減や保育の幅の拡大が期待される。 ・フィールドでの自然体験活動を通じ、子どもたちが自ら学び成長しようとする力を育むため、第4期事業においても、継続して子ども・保護者・保育者ともに安心できる環境整備の支援に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑬まちなかの緑地整備事業		部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
		実施期間	H30～	E-mail	toshi-machi@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-5 市街地の活性化と快適な生活空間の創造				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・全国都市緑化信州フェアを契機に、市街地においても、木々に親しめる緑地整備を集中的に推進することが必要。 ・加えて、市街地の緑地は、ヒートアイランド現象の緩和や大気浄化などの生活環境の保全に寄与するとともに、安らぎや癒し効果により快適な暮らしを支え、長野県らしい景観を提供することから、適切な整備が必要。
目指す姿・成果目標	<p>県民協働による市街地の緑化整備 概ね25箇所程度/5年間</p> <p>【取組により期待される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに木々を身近に感じられる魅力的な緑地が創出されることによる、都市の魅力の向上。 ・活動・交流の場としての利用によって地域の元気づくりを推進するとともに、緑化に関する人材発掘・育成等によって持続可能な緑化を推進。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	市街地における木々に親しめる緑地の整備を集中的に推進するため、市町村及び民間団体が行う緑地の整備を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	緑地整備(樹木・芝等の植栽、花壇・ベンチ等の施設整備)	市町村 民間	緑地整備 1箇所	3,000,000円 [3,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		4,000	5,750	2,000	4,000	6,000	21,750	
補正予算		-2,082	-2,000	-1,000	-1,000	-3,000	-9,082	
合計(A)		1,918	3,750	1,000	3,000	3,000	12,668	
Aの財源	森林税	1,918	3,750	1,000	3,000	6,000	15,668	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	1,760	3,750	1,000	3,000	0	9,510		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	3,000	3,000		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①市街地の緑化整備	目標値	①	4箇所	4箇所	2箇所	2箇所	4箇所	概ね25箇所程度
		②						
		③						
	実績値	①	4箇所	2箇所	1箇所	1箇所	1箇所	9箇所
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・1箇所の緑地整備を実施することで魅力的な緑地が創出され都市の魅力向上に寄与したが、「まちなか」では土地利用の需要が高く、用地調整等が進まず事業実施に至らず目標を達成できなかった。</p> <p>(副次的な効果) 整備後の管理などを地域と連携して行うものもあり、コミュニティの活性化や生活環境の保全等の意識醸成に寄与した。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間で9箇所(約2,100㎡)での緑地整備を実施し、まちなかでもみどりを身近に感じられる場の整備を行うことができた。 ・整備後の管理などを地域と連携して行うものもあり、コミュニティの活性化や生活環境の保全等の意識醸成を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市化や住宅地などの開発が多い用途地域内において、緑地を確保することにより、生活環境の保全・向上に寄与した。 ・「まちなか」という土地利用の需要が高いこともあり、目標値の達成はできなかったが、みどりが持つ多様な機能をまちづくりへ展開し、持続可能な社会の実現に向けた取組を促進するため、第4期においても継続して事業に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

	⑭観光地の景観整備 (県単道路橋梁維持修繕費)	部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	H30～	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した街路樹の整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 街路樹等の整備を行う街路延長 概ね延べ40km程度/5年間 【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上 街路樹剪定の実施にあたっては「街路樹剪定士」資格保有者による作業を要件とし、資格保有者の拡大を促すとともに、モデル事業として剪定技術に関する講習会など、街路樹管理技術向上の醸成を図る。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	観光地周辺の街路樹整備	長野県	街路樹整備 1.5km	4,000,000円 [4,000,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	4,000	0	0	4,000
当初予算		16,000	20,000	20,000	15,000	4,000	75,000	
補正予算		0	20,000			0	20,000	
合計(A)		16,000	40,000	24,000	15,000	4,000	99,000	
Aの財源	森林税	16,000	40,000	24,000	15,000	4,000	99,000	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		16,000	36,000	24,000	15,000	4,000	95,000	
次年度への繰越額(外数)		0	4,000	0	0	0	4,000	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考		
①街路樹整備	目標値	① 延べ10km	延べ10km	延べ10km	延べ7km	延べ1.5km	延べ40km	R2にR元からの繰越3km含む	
		②							
		③							
	実績値	①	14km	10km	14km	7km	1.5km		47km
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・国管アルプスあつみの公園や諏訪湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備を実施し、観光地の魅力向上に繋がった。</p> <p>・令和4年度では約1.5kmを整備し、目標を達成した。</p> <p>(副次的な効果) 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> 目標も超える路線での取組を実施、街路樹等のまちなかのみどりを整備することで、魅力向上を図った。 観光地周辺の街路樹整備について、地域に求められる緑化機能・景観を作るための樹種の選定や植樹後の維持管理について課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 景観向上に寄与し、地域からも評価の声をいただいている 専門家の意見を聞きながら、街路樹の適正な維持管理に努めるとともに、まちなかグリーンインフラと協同して、効率的・効果的な街路樹整備を行い、景観の維持に努めたい。 第4期では「まちなかの緑・街路樹の整備」として継続して取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

事業区分	⑭観光地等魅力向上森林景観整備事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～R4	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した間伐の実施や、地域の特性・ニーズに合わせた間伐、除伐、竹林整備等が必要。
目指す姿・成果目標	地域の景観に合致した間伐等 概ね110ha程度/5年間 【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 景観整備 ビューポイントの樹木の伐採 	市町村	13箇所計14.8haの事業を実施	12,731,500円 [12,731,500円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		7,605	35,000	35,000	35,000	12,900	125,505	
補正予算		0	0			0	0	
合計(A)		7,605	35,000	35,000	35,000	12,900	125,505	
Aの財源	森林税	7,605	35,000	35,000	35,000	12,900	125,505	
	国庫支出金	0	0	0		0	0	
	その他	0	0	0		0	0	
決算額(B)		7,605	43,479	44,694	34,997	12,732	143,506	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①地域の景観に合致した間伐等	目標値	①	17ha	29ha	29ha	30ha	10ha	110ha
		②						
		③						
	実績値	①	11ha	43ha	30ha	24ha	15ha	123ha
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 各地域から予算を大幅に上回る要望が寄せられ、箇所数の限定や優先順位を決めながらの事業実施となったが、目標値以上の森林を対象に森林景観整備が行われた。 (副次的な効果) 観光地としての魅力が向上しただけでなく、地域の関係者にとっても里山に改めて関心を持つきっかけとなっている。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> 5年間で123haの観光地や道路沿線の森林景観整備等を実施し、眺望の改善や観光客等の安全確保等が図られた。 森林整備と一体的に看板設置等を支援し、観光客の利用にも配慮した魅力向上が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の見通しが改善し、緩衝帯機能も期待される。 高速道路沿線の松くい虫被害(枯損)木の整備を実施し、高速沿線をはじめとした景観の改善に寄与した。 森林資源を活用した地域の観光資源や魅力向上を図るため、第4期においては「市町村と連携した森林等に関する課題の解決」のため、継続して支援に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑮森林づくり推進支援金		部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～R4	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	5 市町村に対する財政調整的視点での支援				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・広い県土を有する本県においては、各地域の様々な課題に応じて市町村が行う森林整備等の取組が不可欠。 ・森林を多く抱える山間部の町村は、総じて人口が少なく財政規模も小さいことから、財政調整的な支援は不可欠。
目指す姿・成果目標	全ての市町村で地域固有の課題の解決の取組が行われること。 【取組により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な課題解決への取組による森林への関心の向上。 ・身近な里山などの森林整備や木材利用が図られる。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	森林に関する各地域の様々な課題解決のために市町村が独自に行うきめ細やかな取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数 77市町村	89,934,000円 [89,934,000円]

事業	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越	0	0	0	0	
		当初予算	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	450,000
		補正予算	0	0	0	0	0	0
		合計(A)	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	450,000
コスト	Aの財源	森林税	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	450,000
		国庫支出金	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0
	決算額(B)	89,978	88,870	90,000	89,238	89,934	448,020	
	次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①実施市町村数	目標値	①	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村		
		②							
		③							
	実績値	①	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 国や県の補助事業の対象とならない松くい虫対策や、野生鳥獣被害防止のための緩衝帯整備、間伐材の利活用等といった、各地域の様々な課題に応じた独自の取組が全ての市町村で行われた。 (副次的な効果) 市町村における地域課題解決のための取組及びその内容に係る情報発信に一定の進展があった。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・全77市町村において、支援金を活用した地域課題の解決のための取組が行われた。 ・松くい虫被害木への対策や、緩衝帯の整備等の森林の保全や安全確保の取組のほか、危険木の対処や竹林整備等の地域課題の解決に取り組む事例も多く見られるなど、効果的な活用が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村において、喫緊の課題や地域の細やかな要望への対応等に積極的に活用されたほか、木育や森林環境教育など、森林等への興味・関心を高める取組も実施された。 ・第4期においては、地域において必要性の高い取組に対する補助を行う事業として再編し、市町村が課題解決のために柔軟に活用できる事業として新たに実施する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑩みんなで支える森林づくり推進事業		部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H20～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県民アンケートでは、森林税の使途が分からないと回答した方が73.5%に及び、特に若年層の理解が広がっていないことから、より積極的かつ効果的な広報が必要。 チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議、地域会議による森林税を活用した事業の評価・検証が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 森林税の使途の認知度30% 【取組により期待される効果】 森林税を活用した取組の増加

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> テレビ、ラジオ、SNS、イベント等による広報及び森林税の見える化を図るため地域の実情に応じた広報・普及啓発を実施。 森林税活用事業の内容や実施結果の評価検証に対して意見を聴くため、県民会議及び地域会議を開催。 		
	事業内容	事業主体	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット、ラジオ等でPR 各地域の広報誌・イベント等でPR 県民会議、地域会議の開催 	長野県	7,062,855円 [7,062,855円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予 算 額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		10,000	10,000	11,181	13,711	13,437	58,329	
補正予算		0	0	-554	-568	-2,568	-3,690	
合計(A)		10,000	10,000	10,627	13,143	10,869	54,639	
Aの 財源	森林税	10,000	10,000	10,627	13,143	13,437	57,207	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		8,489	7,678	4,726	9,981	7,063	37,936	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①森林税の使途の認知度	目 標 値	①	30%	30%	30%	30%	30%	
		②						
		③						
	実 績 値	①	45.5%	43.6%	37.7%	—	20.8%	20.8%
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 令和4年9月に一般県民及び対象法人を対象に森林税の認知度等に関するアンケートを実施した。使徒の認知度については、20.8%と目標達成には至らなかった。</p> <p>(副次的な効果)</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成 果	評 価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<p>SNSでの情報発信や地域情報誌、イベント等によるPRなど、様々な媒体・方法で森林税の使途の認知度向上が図られるよう普及啓発活動を実施した。</p> <p>県民会議・地域会議は、幅広い分野の方に参画いただいたことで、多様な視点からの意見をいただくことができたため、今後の情報発信等に反映する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果より、森林税の認知度は63%であったが、使途の認知度は21%と、目標に達しなかった。 特に、20～30代への認知度が低いため、該当年代へ意見を徴取しながら、効果のある媒体・方法により広報活動を実施していく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑰森林(もり)の里親促進事業		部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H15～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	近年、温暖化防止等の社会貢献や、福利厚生などを目的とした企業の森林づくりへの関心が高まっていることから、こうした企業による森林づくりを推進し、森林整備や都市部と山村の交流、森林への理解の促進を図ることが効果的である。
目指す姿・成果目標	県が仲介役となって、森林づくりへの参画を希望する企業のニーズに応じて地域とのマッチングを行い、「森林(もり)の里親」契約を締結する。 ・企業・団体等と地域との協定の締結 25件/5年

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約の締結の掘り起こしに向けて企業とのオンライン協議や、イベント等でのPRパンフの配布を行った。 ・企業のニーズを踏まえて、地域とのマッチングを実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業との現地調査等 ・契約前のプレ活動 ・企業向け講座の開催 	長野県	新規契約 17件	391,277円 [391,277円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		1,002	1,002	1,002	1,002	1,180	5,188	
補正予算		0	0			0	0	
合計(A)		1,002	1,002	1,002	1,002	1,180	5,188	
森林税		1,002	1,002	1,002	1,002	1,180	5,188	
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	
その他		0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	749	155	54	79	391	1,427		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考		
①新規契約件数	目標値	①	5件	5件	5件	5件	25件		
		②							
		③							
	実績値	①	5件	5件	3件	4件	17件		34件
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 企業のニーズに応じて県が仲介役として地域選定や受け入れ側との調整を行った結果、目標を大きく上回る17件の契約の締結につながった。</p> <p>(副次的な効果) 企業との連携により森林づくりを行うことで、企業の社員と山村地域との交流を促すとともに、地域住民にとっても森林づくりに関心をもつ契機となった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の里親契約のマッチングに取り組み、5年間で目標数を上回る34件の企業との契約の締結を支援した。 ・ゼロカーボン実現に向け、企業の森林整備や森林吸収源対策への関心が高まっており、今後もマッチングによる支援が必要と認識。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の里親契約により、協働による地域の森林管理が推進されるとともに、森林の二酸化炭素吸収量確保にも寄与した。 ・地球温暖化防止のための吸収源対策を企業の社会的貢献活動の一環として制度を活用するニーズが高まっており、地域とのマッチングによる森林整備の推進にも効果的と考えられることから、第4期においても継続して事業に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

⑱地球温暖化防止木材利用普及啓発事業		部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 県産材を使うことが地球温暖化防止につながることを広くPRすることが必要。
目指す姿・成果目標	個人住宅や企業等の木質化でのCO2固定量の認証量:500t-CO2/年 【取組により期待される効果】 県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	県産材を使用した住宅や事業所の木造・木質化、木製品の二酸化炭素固定量を認証し、認証証書を発行。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	県産材住宅の施主や店舗等を木造・木質化した企業等に対し、県産材利用によるCO2固定量を認証	長野県	認証量 136t-CO2 (認証件数 7件)	121,984円 [121,984円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		565	567	400	400	400	2,332	
補正予算		0	0	0			0	
合計(A)		565	567	400	400	400	2,332	
Aの財源	森林税	565	567	400	400	400	2,332	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)	235	246	25	20	122	648		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0	0	0	0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①CO2認証固定量	目標値	① 500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2	設定なし
		②					
		③					
	実績値	① 354t-CO2	205t-CO2	460t-CO2	17.8t-CO2	136t-CO2	1,173t-CO2
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	(達成状況) 令和4年度の実績は、前年度の実績より認証件数及び認証固定量を上回ったが、個人住宅や中大規模の公共建築物に係る申請が少なく、実績は年度目標値を下回った。 (※令和4年度まで5か年の成果目標は設定なし) (副次的な効果) 認証を受けた企業が環境貢献の一環として広報することにより、認証制度や木材利用の普及につながった。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	・5年間で1,173t-CO2の認証を実施し、地球温暖化防止や地域の森林整備に貢献することをPRし、県民の環境への関心を高めるとともに、県産材の消費拡大が図られた。	・地球温暖化防止や地域の森林整備に貢献し、認証を交付することで木材利用のメリットに繋がり、認証を交付し木材の魅力発信にも繋がった。 ・2050ゼロカーボンの実現を目指し、CO2固定量の見える化を図ることで地球温暖化防止に対する県民の関心を高めるため、第4期においても一部変更し、継続して事業に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和4年度事業分)

	⑱地球温暖化防止吸収源対策推進事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	・地球温暖化防止のための吸収源対策を企業の社会的貢献活動の一環として取り組もうとするニーズが高まっている。
目指す姿・成果目標	・間伐等の森林整備によるCO2吸収量の評価方法を定め、企業等の森林整備活動をCO2吸収量で知事が評価・認証することにより、一層の企業等の参画による森林整備を促進する。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	・民間企業等のCSR活動を「見える化」するため、「森林(もり)の里親促進事業」で間伐等を実施した森林のCO2吸収量を県が評価・認証した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	・森林のCO2吸収量認証	長野県	・CO2吸収量認定量 2,089t-CO2	50,775円 [50,775円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0
当初予算		471	375	375	471	457	2,149	
補正予算		0	0			0	0	
合計(A)		471	375	375	471	457	2,149	
Aの財源	森林税	471	375	375	471	457	2,149	
	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
決算額(B)		129	45	43	109	51	375	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0	0	0	0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①CO2吸収認定量	目標値	① 4,000t-CO2	4,000t-CO2	4,000t-CO2	3,000t-CO2	3,000t-CO2	設定なし
		②					
		③					
	実績値	① 2,010t-CO2	1,660t-CO2	1,293t-CO2	1,371t-CO2	2,089t-CO2	8,423t-CO2
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・認証申請件数は16件と昨年度より増加したが、各申請の認証量が少なく、年度目標を下回った。 ・H20より継続して行われている事業であり、森林(もり)の里親企業等に対しある一定の認知が図られてきていると考えられる。 (副次的な効果) 本認証制度活用により、企業等は、CSR報告書への記載やPRが可能となり、企業等のイメージ向上につなげられる。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	5年間で8,423t-CO2(58件・97者)の二酸化炭素吸収量を認証し、森林への社会的関心度や企業のイメージ向上等が図られた。	・本制度の活用により、企業の参画による森林整備を推進し、森林のCO2吸収量確保に関する取組を促進することで、ゼロカーボン社会の実現に寄与している。 ・地球温暖化防止のための吸収源対策を企業の社会的貢献活動の一環として制度を活用するニーズが高まっているため、第4期においても、継続して事業に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (過年度完了事業分)

②道路への倒木防止事業		部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	R1 ~ R3	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 道路管理区域外(山林)の立木は所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、倒木の恐れがある危険木が多い。 台風等の異常気象時に倒木による通行止めが発生している。
目指す姿・成果目標	県管理道路沿線の道路区域外の危険木伐採 概ね20箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 危険木伐採により倒木による通行止めリスクの低減を図り、災害時の主要なライフラインが保全され、県民生活の安全・安心が確保される。

2 事業の実施状況

令和4年度の実施状況	異常気象時等に県管理道路沿線の道路区域外から道路へ倒伏する恐れのある危険木の伐採			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]
	実施なし			

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0		0
当初予算			30,000	45,000	10,000		85,000	
補正予算			30,000				30,000	
合計(A)			60,000	45,000	10,000		115,000	
Aの財源	森林税		60,000	45,000	10,000		115,000	
	国庫支出金		0	0	0		0	
	その他		0	0	0		0	
決算額(B)		60,000	45,000	10,000		115,000		
次年度への繰越額(外数)			0	0	0		0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①道路への倒木防止	目標値	①	8箇所	8箇所	5箇所		21箇所
		②					
		③					
	実績値	①	9箇所	10箇所	5箇所		24箇所
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成果	評価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	台風等の災害によるインフラへの被害や県民生活への影響を生じさせないため、24箇所危険木の除去等の対策に取り組んだことで、通行止め等のリスクが低減された。	<ul style="list-style-type: none"> 倒木等の危険木処理を実施したことにより、基幹道路の被害発生が予防され、県民の安全・安心な暮らしの確保に寄与した。 県管理道路の対策は目標を達成し、一定の成果が果たされたことから、第4期事業では「市町村と連携した森林等に関する課題の解決」の支援として、市町村によるライフライン等の保全対策を支援する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (過年度完了事業分)

③里山整備方針作成事業		部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30 ~ R1	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画 (しあわせ信州創造プラン2. 0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	2期10年の森林税事業により、30,852haにわたる里山の森林整備を実施してきたものの、未だ整備がされていない森林が残っている。
目指す姿・成果目標	里山整備方針の作成により、「防災・減災」の観点から優先的に森林整備を要す箇所の見える化を図る。 【成果目標】 里山整備方針の作成 120地域/5年間

2 事業の実施状況

令和元年度の実施状況	「防災・減災」の観点から、航空レーザー測量等の科学的知見を活用して、優先的に森林整備を行う必要がある箇所を抽出・点検により明らかにし、方針として図面にまとめ、見える化を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和4年度決算額 [うち森林税活用額]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0				0
当初予算		25,200	14,700				39,900	
補正予算		-16,000	-3,500				-19,500	
合計(A)		9,200	11,200				20,400	
Aの財源	森林税	9,200	11,200				20,400	
	国庫支出金	0	0				0	
	その他	0	0				0	
決算額(B)		5,374	5,037				10,411	
次年度への繰越額(外数)		0	0				0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備方針の作成地域数	目標値	①	120地域				120地域	目標値は120地域/5年間 (旧市町村単位)	
		②							
		③							
	実績値	①	84地域	16地域				100地域	実績値は新規作成の地域 ※令和4年度末時点 114地域作成
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) (副次的な効果)
-------------	--------------------

県民会議・地域会議等からの意見	
-----------------	--

3 第3期森林税活用事業(5年間)の成果及び評価

	成 果	評 価
事業実施によりどのような成果がみられたか。	・航空レーザー測量等の科学的知見を活用して、防災・減災のために整備が必要な森林の絞り込みを実施し、県下100地域で里山整備方針が作成された、	・森林税を活用した補助事業を終了した令和2年度以降も未作成地域での方針作成が進められ、方針に基づいた防災・減災のための里山の整備が各地で進められた。 ・第4期においても、当方針に基づく防災・減災の里山の整備について、支援に取り組む。